

東日本大震災・原子力災害伝承館の運営に関する有識者懇談会
調査・研究専門部会 報告

日 時 令和 6 年 3 月 2 7 日 (水) 1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0
場 所 コラッセふくしま 5 階 小研修室
出席者 委員 川崎部会長、小沢委員、後藤委員 (オンライン)、藤本委員
オブザーバー 復興庁 福島国際研究教育機構室 山岸企画官
事務局 伝承館 高村館長、佐藤企画事業部長、星事業課長
福島県生涯学習課 鈴木課長、箭内副主査
イノベ機構 蘆田事務局長、伊藤理事長補佐

内 容

- ・事務局から、伝承館の調査・研究事業の概要と、令和 5 年度の研究活動内容を報告した後、意見交換を行った。

【主な意見】

- ・常任研究員の任期 3 年で成果が見えるようにすることは難しく、研究者の成長具合を考慮しながら柔軟に進めていく必要がある。
- ・常任研究員の勤務形態について、裁量労働制の導入などを検討してはどうか。
- ・国外への発信強化、海外との連携・共同研究を推進してはどうか。
- ・来年度からは F-REI と連携して調査研究を行うことが大きな目玉になる。
- ・伝承館が関わる F-REI の第 5 分野 (原子力災害のデータと知見の集積・発信) は、被災者や県民の生活に寄り添った研究ができる非常に重要な分野であり、県民の生活再建に研究成果をどう生かせるのかを意識しながら F-REI と連携して研究を進めてほしい。
- ・研究が進んでいくと、研究のサポート体制が重要になるので、人材育成や資金獲得を行いながら進めてほしい。
- ・伝承館の立地を生かした研修事業の充実に期待する。
- ・学術研究集会等により研究成果を大きく発信してほしい。